

# 江包・大西の御綱祭り

(国指定無形民俗文化財 平成24年3月)

大和の奇祭 五穀豊穰と子孫繁栄を願う農耕神事

【場所】奈良県桜井市大字 江包（えつみ）

大西（おおにし）

素盞鳴神社（すさのおじんじゃ）

市杵島神社（いちきしまじんじゃ）

【由来】昔、大洪水があつて神様が上流から流れてこられたのを、大西では稻田姫、江包では素盞鳴命をお助けして祀ったという。その後、毎年正月にご結婚されることになったという。（和州祭祀記）また、これに加えて洪水の時に、稻田姫が蛇（ジャ）になって川を渡られたので、それからこの行事をするようになったとも言い伝えられている。

【概要】大西では雌綱（めづな）、江包では雄綱（おづな）を作り、旧暦正月十日（今日では一月十一日）に、江包の素盞鳴神社の神前で、両大字から運び込んだ雌雄の綱が出会い、夫婦の契りを結ぶ神事がおこなわれる。これが結婚式で、「入船式（いりふねしき）」とも言う。

## 【行事の行程】

### 江包地域

祭りの前々日（二月九日）

春日神社内で、雄（男）綱づくり

綱は、藁九束を芯にしてくくり、（以前は、伊勢音頭をとりながら）トントン叩いて締める。そして、七十九巻ぐらいくくり、これが頭になって、それに三、四十メートルの尾をつける。重さは、約六〇〇キログラム。

当日（二月十一日）  
（注）祭り当日の日程はあくまで概要です。若干の時間のずれが有ることをご承知ください。

午前11時頃  
午前10時30分頃  
午前10時頃  
午前9時30分頃  
午前9時頃  
午前8時頃

綱づくり

祭りの前日（二月十日）  
市杵島神社で、雌（女）綱づくり

綱は、太い三つ綱を綱のよりに従つてなっていき、頭の方を適当な長さに二つ折りにして巻く。他の一端は長くなつていき、一〇〇メートル程の尾をつける。

重さは、約五六〇キログラム。

### 大西地域

祭りの前々日（二月九日）

春日神社内で、雄（男）綱づくり

綱は、藁九束を芯にしてくくり、（以前は、伊勢音頭をとりながら）トントン叩いて締める。そして、七十九巻ぐらいくくり、これが頭になって、それに三、四十メートルの尾をつける。重さは、約六〇〇キログラム。

又、春日神社内で、引き綱（約二〇メートル）を「胴締め」作業する。

区民 春日神社に集合→児童公園に雄綱を運んで、綱の

「化粧直し」をする。頭部の直径は約二メートル・長さは約三メートル。

「化粧直し」や「胴締め」の終了後、地域の東方にある南池まで雄綱を担い春日神社まで巡回する。途中、結婚など祝い事の有った家々を回る。

春日神社に戻ってくる。境内で祝い事の有った家の人々を祝う行事をする。

相撲場（江包地区）で相撲

酒宴をした後、相撲場（田園）で泥相撲をおこなう。

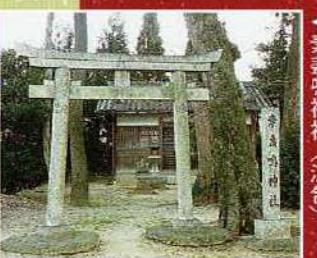
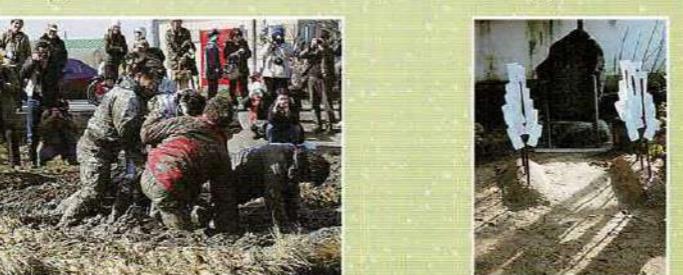
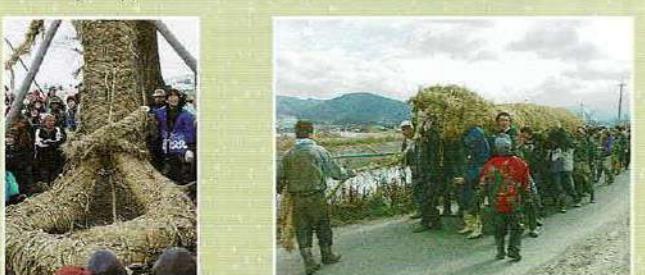
泥が着けば着く程豊作と言われている。二～三回の休憩をはさんで、一時間程の泥相撲をおこなう。

泥が着けば着く程豊作と言われている。二～三回の休憩をはさんで、一時間程の泥相撲をおこなう。



午前11時頃  
午前10時30分頃  
午前10時頃  
午前9時30分頃  
午前9時頃  
午前8時頃

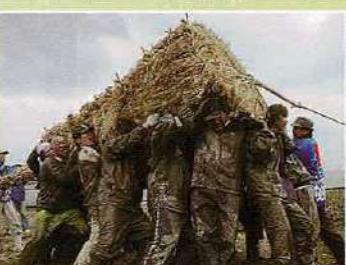
江包の素盞鳴神社に向け出発  
先導は、神主と仲人の喜田氏がおこなう。  
素盞鳴神社に到着  
仲人役は、七度半の「呼び使い」を春日神社に向けておこなう。この間、雌綱は広げて待っている。



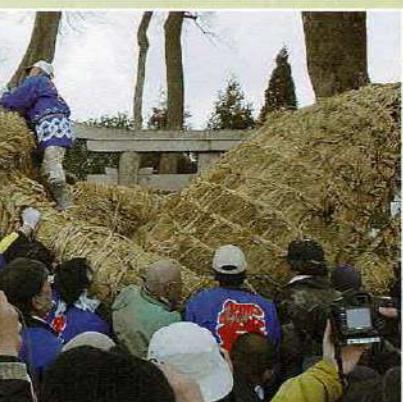
大西の七度半の「呼び使い」に応じて、相撲場から男達に担ぎ上げられた雄綱が、素盞鳴神社前で待っている雌綱に向かって突進する。

### 素盞鳴神社の前で「入船式」

両者が繋がって、神前に吊される。尾は、両方長く張って、雌綱は初瀬川を越して対岸の大木にくくりつけられる。(綱は五月中旬まで吊つておかれ)これで双方の参加者が手打ちをし、大西からは仲人と村役だけが残り、江包側と社殿で式をおこなう。



午後 12時以降 午前 11時30分頃



### 【考 察】『桜井風土記』〔発行 桜井市 著者 柏木 喜一氏〕より

この行事は古くからの田遊び祭りの一種で、農作業の豊作を予め祝う儀式。この種の行事は、日本全国ところどころで、いろんな形で伝えられている。関東の赤塚、近畿の飛鳥のおんだに代表される感染所作(かまけわざ)というべきものであろう。『折口信夫全集』広く米作地帯ではどの国にもあった、豊作を祈る農民の切なる願いの表れなのだ。しかし、ここのは人が扮するのではなく、藁で作られており、それがまことに巨大であり、しかも厳肅な所作がまもられてきていることがありがたい。

【参考資料】大三輪町史・桜井市史(下巻)・江包大西御綱祭保存会パンフ



### Otsuna Festival Fête Otsuna

Feb.11 Susano-o Jinja Shrine (Ōnishi-Etsumi)  
11 fév. Sanctuaire Susano-o Jinja (Ōnishi-Etsumi)  
A ritual for exchanging marital vows in which male and female ropes are carried.  
Un rite d'échange de serments de mariage au cours duquel des cordes mâle et femelle sont transportées.

### 网节 오쓰나마쓰라

2月11日 素盞鳴神社 (大西・江包)  
2월 11일 스사노오신사 (오니시, 옛쓰미)  
抬出雄网和雌网，交换夫妇契约神事。  
오즈나와 메즈나를 짊어지고 부부의 서약을 나누는 행사.